

## 第2回オリエンテーリングフェスティバル長野菅平大会

1999年9月25日(土)~26日(日) 雨天決行、荒天中止

9月25日(土) 第22回長野県オリエンテーリング大会

9月26日(日) 第7回クラブカップ7人リレー オリエンテーリング大会

場所：長野県真田町菅平高原（全日程）

場所：長野県真田町菅平高原

主催：長野県オリエンテーリング協会、R.M.O-サービス、Team白樺、

共催：菅平オリエンテーリングクラブ

後援：長野県、長野県教育委員会

真田町、真田町教育委員会、須坂市

井上財産区、菅平区

真田町観光振興協会、菅平高原観光協会、菅平高原旅館組合

つばくろコミュニティハウス管理委員会

関東甲信越ブロックオリエンテーリング推進会議

協力：ホテルやまびこ

菅平MTB協会

# 成績表

### ご挨拶

R.M.O-サービス 代表 山川克則

この成績表の作成がまたしても大変遅くなりました。今度は1ヶ月以内に出すと意気込んで、大会直後の月曜夜まで現地に滞在して後片付けと並行しながらある程度のところまで仕上げて帰り、優勝クラブには早々に原稿依頼をしていたのですが、このような状態になってしまいました。楽しみに待っている方も多いことは判っていながら、本当に申し訳なく思っております。

言い訳は無用なのですが、ここ数年来ひきづっていた体調不良が自身の腎臓疾患（子供の頃の高熱が原因とされ腎臓内の細胞が長い期間に少しずつ機能停止していく）が原因と知ったのが2年前の正月。常磐インカレの調査を明日に控えながら、あまりの体調不良で深夜急患で大学病院に駆け込んだ時です。30代の無茶の生活と、勤め人みたいに定期検診を受けてこなかつたこともあり、進行が早くまた発見も遅く、殆どダメになって人工透析を導入するのがあと2年くらいかなあ、といわれました。同時に即緊急入院を云われましたが、国際スキーO等行事を沢山かかえていたこともあって無理言って外来で入院して処方するのと同じことをやっていただき、大幅な減量を達成。常磐インカレは羽鳥君ほか友人・後輩に助けていただきました。その春は少し持ち直し山口インカレの舞台である秋吉台の調査も元気にこなしていましたが病状は徐々に悪化し、昨年夏はトータスとの世界選手権チャリティ大会後暑い夏に殆ど動けなくなり、菅平での準備でも木村君や元木君が気の毒がるほど斜面が全く登れない状態となっていました。そして、宣告通り、2年弱で日光でのインカレショートの時はすでに尿毒症でからだじゅう水ぶくれ状態、その後も某所で少し調査していたのですが、関東インカレ団体戦を前にして生命が危険な状態となり緊急入院、即、人工透析導入となりました。抱えていた仕事の関東インカレや日光インカレの調査は海外のプロマッパーも含めて、また皆に助けてもらうことになりました。その節はありがとうございました。入院は2ヶ月に及んだのですが、未だにその後をひきずっています、常に仕事残が山積みの状態、入院後期にはかなり体調も回復し臨時外出で（ヘルプに入った海外プロマッパーと渡りあう会話をしなければならないこともあります）日光の調査を行ったりもして、退院後も睡眠はちゃんと取っていますが、全く休むことなく今日までできています。まだ年賀の挨拶はおろか各方面への病気の挨拶もしていない状態で、この文章が自身のことをちゃんと書く最初の機会かもしれません。（私事に紙面を割いて申し訳ありません）こんな中、なかなか目前の仕事に追われて、この成績表作成のプライオリティを上げることが出来ませんでした。今年のプログラムを作成する段になってリミットとなりこうして発行している訳ですが、これではいけませんね。今度こそは早く発行し、皆さんのお手元に次の糧となるべくお届けしたいと思います。どうか暖かい目でご支援お願い致します。病状の方は、現在週に3回、毎回4時間強を割き人工透析を行う「第1級身体障害者」ではありますが、概ね体調も良く治療以外の時間は元気に仕事（=趣味）に邁進しております。走ったりすることは出来ませんが、ゆっくり斜面を登ることは問題なく出来、調査もガンガンしております（別項の宣伝参照）。この大会も一生の意義高い仕事と捉えておりますので、ずっと続けていきたいと思います。今後も宜しくお願ひ致します。毎日着実に働いておりますので、山積みの程度も徐々にではありますが解消の方向に向かってあります。

さて。前置きが長くなってしまいました。優勝した**多摩OL**（クラブカップ）、**サンスーシ**（ベテランクラブカップ）の皆さん、**おめでとうございます**。多摩OLは5年ぶり3回目の優勝でした。今回からクラブカップは7人（しかも制限選手は3人）、ベテランクラブカップは4人構成となり、メンバー確保に四苦八苦したところもあるかと聞いております。新ルールでの最初の優勝ということになります。

昔の成績表に書いたことですが、この大会は当時クラブの力として多摩OLが突出していて、日本のOL界をもっと活性化

するためには、打倒多摩を掲げてクラブ作りをして行く為の舞台を用意しよう、と思って始めたことです（他にも動機はありますか‥‥）。そして、私の意図通りに、多摩OLに立ち向かっていった数多くのクラブを第1回、第2回と最初出遅れながらも最後は力でねじ伏せ連覇で王者の力を見せつけてくれました。多摩を打ち破ることはそう簡単ではないことを見せつけ、さらに各クラブは強化に励まなければならなかったのでした。その後の展開は皆さん良くご存知かと思います。そして今年、かつての王者多摩は戦前の某所の予想記事で全く取り上げられず、実は3人の制限選手を有效地に配置できるほど人材に事欠かず、ひそかに闘志を燃えたぎらせていたのでした。しかし、優勝記事にありますように、どこよりも入念に準備し、ルールを研究し対策を練ってきたようです。その姿は、かつての王者の貴祿というよりは、まさに挑戦者のものでした。そして、クラブ内だけでなく、他のクラブにも多くの感動と動機付けを与えてくれました。また、出場した中で唯一4チーム完走（3チームはリスタートにからず）ということで層の厚さでも、クラブ全体の取り組みでも、前回の京葉、前回のOLP兵庫を凌ぐものがあり、それを結果として示してくれました（前回成績表で触れたとおり、7人リレールールでの層の厚さ「認定新記録」です。これを破る5チーム完走記録を打ち立てるクラブが出現することを期待します）。この多摩の優勝により、益々この大会は盛り上がりしていくものと確信します。良いレースをありがとうございました。ベテランのサンスーシは2年ぶり2回目の優勝でした。昨年も実際は圧倒的なトップゴールで実は3連覇となるほど、このクラスではここのところ力が突出しているのですが、ペナに泣いたのでした。今年はその雪辱を果たし、記印を確実に行ってきました。安定した4人のベテランランナーを揃えるのは容易ではないかもしれません、サンスーシを打ち破るほどのクラブが出現することを願いたいものです。

また、地域でのライバルクラブ同士の熱い戦いもこの大会に参加する大きな動機付けとなっていて、また私の方も大勢の参加者を迎えてこのような運営負担の大きい大会を毎年行っていく大きな動機付けとなっているのですが、こちらの方も大いに盛りあがっていたようです。入賞目標、1桁順位目標、継走による完走目標、クラブそれぞれに色々な目標があったでしょうかがいかがだったでしょうか。目標達成したクラブ、次回に雪辱を期すクラブ、それぞれの姿があると思います。

さて、今年はどう云うレースになるのでしょうか？　もうその舞台はそこまで来ています。なつかしい顔を含めて皆さんにお会いすることを楽しみにしています。

## 第22回長野県大会を終えて

長野県大会の方も少しコメントしておきたいと思います。この大会は、菅平地区でまだ大会経験の無い、オオマツ・つばくろ地区での開催となりました。そもそもこの大会を菅平で開くことになったのは、PCマップの更新が迫られていてそれならと大規模大会であるクラブカップの誘致を熱心に地元の方にしていただいたのがきっかけで、滞在型の複数日大会大会ということになり、それなら菅平を広く知っていただくために（大きなマップを作成することもあり）この地区でやって欲しい、ということになりました。また、最近各地の大会で導入されている電子的記印方式であるe-cardを使うことにいたしました。その理由は2点あり、一つは運営の省力化、もう一つは次回のクラブカップでe-cardを導入するためにより多くの方に体験する機会をもっていただきたい、ということでした。そもそも、クラブカップの併設程度の考え方で準備していましたが、予想を大幅に上回る参加をいただき嬉しい悲鳴をあげての運営でした。そのため、M21Aクラスの参加者は270名を越え、時間プロック制のスタートになり、e-cardを3回も使いまわすことになりました。運営慣れしていないことと、使いまわしによる処理の煩雑さで、こちらも確定成績を出すのに困難がありました。掲載したラップ込みの成績は壮観であります。テレインもこんなに多くの参加者に楽しんでいただくほど広くなく、わずか4コースとなりました。窮屈な思いをした方也有ったかと思いますがご容赦いただきたいと思います。その後、この地区では北信越地区のインカレセレクションなども行われ、また本年はいくつかのクラブが夏合宿を行っています。菅平全体にオリエンテーリングが根付てきてうれしく思うと同時に、今後も皆さんの菅平高原でのオリエンテーリング活動をしていただくよう地元の方に成り代わって宜しくお願ひ申しあげます。

## キッズOについて

こちらも2日間大好評でした。その後の大会でキッズOを開催するところが増えてきたのは、主催者としてとても嬉しく思います。風でシールが飛んしまって無くなってしまったコントロールもあったようで申し訳ありませんでした。今後も改善を重ね継続して大会に併設していきたいと思います。

### 【優勝クラブから】

#### クラブカップ優勝監督のつれづれ

（菅原琢 多摩OL監督）

『我々は日本一である』

多摩OL-Aチームは見事、5年ぶりに優勝カップを奪還しました。皆さんの御協力に感謝いたします。特に主催者と、最後まで我々を苦しめた京葉OLクラブには最大限の讃辞を送らせていただきたいと思います。

1走で好位置につけたAチームは2走で2位、3走で首位に立った後はゴールまで首位を走り続けました。（4走からは宿敵・京葉OLクラブと見応えのあるマッチレースとなりました）5年ぶりに一番高いところに上り詰め、感慨もひとしおです。

我々には勝つチャンスがあった、そしてそれをしっかりとモノにした、ということです。（勝つチャンスのあったクラブは決して少なくないのです）

CC7、優勝できて本当に良かった。もちろん、1回目の優勝も、2回目の優勝も嬉しかったことは間違いない……絶対に優勝できないだろうという状況に追いつめられてからの優勝だったから。当時はタレント揃いだったなあ。この6年で世代交代が進んでいることを実感します。3度の優勝すべてに関わったのは私とヨルクだけです。（もっとも、外に目を向ければ私が高校生で競技OLを始めたときにはすでに村越時代が始まっていて、そしてそれは今も続いているわけです。）既にヨルクは制限選手ですし、そして来年はいよいよ私自身がシニア制限選手に昇格？です。

決して「勝ち組」ではない私が、初めて涙を流して喜べたのは9月の第0回の全日本リレー（全国対抗リレー：石川県金沢市）でした。利光/富田/藤平/菅原と多摩OL勢で固めた東京チームのアンカーとして10位で出走して激走、銅メダルにたどり着いたときでした。このとき、インカレ・コンプレックスを払拭できたように思います。（個人戦は4回Eを走って1回も40位に入

れず、リレーは個人加盟で選手権に出られず。おまけにユニーク代表も逃した)……そして翌年から全日本リレーと名前を変えた大会はまもなく第8回大会を迎えます。(今年は兵庫県。これはこれで、がんばりましょう!、関係者の皆さん)

それから2年、93年9月に初めてのクラブカップ6人リレーがハケ岳・泉郷で開かれました。リレーといえば3~4人という従来の常識を覆し、クラブ単位で6人の選手が走るこの大会は衝撃的でした。本場スウェーデンのクラブ対抗10人リレー(ティオミラ)のように社会人が燃えられる舞台が提供されたことはまさに画期的なことだったわけです。

今ほどは大規模ではありませんでしたが、素晴らしい大会でした。この大会では1走で41位と出遅れたものの着実に追い上げ、我々が優勝(利光・加藤昭・田中・鈴木規・菅原・ヨルク)することができました。

翌94年9月、岐阜の根ノ上高原で宿敵京葉に連勝。(ただしオープンのユニーク組に敗れた)。このときのメンバーは藤平・高橋厚・菅原・鈴木規・ヨルク・富田。しかし翌95年、京葉に雪辱される。「渋谷で走る会今回と違って、エリートで固めた「クラブ」だったにも敗れました。以後、表彰台の一番高い所に立つことはなく、一昨年・昨年は表彰台どころか入賞すら逃すありさま……

RMOの山川さんは今回の勝ち方を評して、「以前の多摩は横綱的な優勝、今回の優勝は挑戦的な優勝」と言いました。クラブ内にも賛否ありましょうが(というか、うとうしく感じた人もいるでしょう)、手間暇かけて準備してきたつもりです。なぜなら、あおがなくても自然と燃え上がるなら燃えるに任せておけばよいのですが、活性化してきたとはいえ、今はまだ自然発火するほどは煮詰まってはいないと判断したからです。

春から扇(あお)いで煽(あお)った甲斐があって、Aチームに限らずいつになくテンションの高い集団となって菅平高原に乗り込めたのが何よりの勝因だったと思います。(レースは準備段階からの総決算ですが、そこに至るプロセスも非常に大切なことです。)当日、さらに盛り上がるにはどうしよう……。自分の走っているとき以外も大いに楽しみ盛り上がるには、応援自体を楽しんじゃうのが近道。そう思って「鳴りもの」も用意しました。ラッパやカウベル、タンバリン..(来年はサンバ・ホイッスルも用意するぞ!)

今回、多摩OLは7人リレーに4チームエントリーしていました。7×4=28人。これだけの人数ですから、直前になって参加できない人が出たりして、チームの成立には結構気を使いました。その中でもこの二人、Mr.ローチとヨルクの到着には気をもみました。彼らは出張で香港(たまたま目的地が一緒だっただけです)に出かけていました。ローチは土曜午後に成田に到着して、その足で長野新幹線終バスで宿舎に到着しました。ヨルクの場合はさらに壮絶で、帰国便の予約がギリギリまで取れず、ようやくとれた飛行機は、大地震直後の台北経由。本当に飛行機は飛ぶのか気が気ではありませんでした。それでも無事、土曜の21時過ぎに羽田に到着したのでした。そうとう疲れていたはずの彼は日曜の朝、高速をひた走ってスタート時刻の前に会場に現れたのでした。

今回、燃えている選手は多かったです。口先だけでなく心底燃えていたんだと思います。優勝争いの下馬評にもあがらないことは屈辱でした。最近の低迷には我々自身がショックを受けていました。それらを払拭するために優勝はMUSTでした。

監督がしたことと言えば、情報収集とその提供。それに会報への技術講座掲載、合宿での基礎練習メニューの設定くらいでしょうか。

「勝つためには何でもする」……今まで、出走後のチーム組み替えは頑なに否定してきましたが、今回はそのルールを活用することも申し合わせました。快走しても失格しては元も子もないで、地図とコントロールカードとゼッケンの番号確認を怠るな、コントロールに着いたらまずナンバーを確実に確認しろ、とくどいくらいに念押ししました。おかげで、失格者はなく、大きなミスをした選手もほとんどいませんでした。

今回の勝者は誰でしょう。Aチームの7名、もちろん勝者です。誰一人としてペナ・棄権のなかったB・C・Dチームのメンバー、彼らもまた勝者です。応援専従だった奥さん連合、お子さま連合、祝勝会に参加してくれた皆、彼らまで含めて皆が勝者。そう、クラブカップを制したのは「多摩オリエンテーリングクラブ」、我々なのです。

いまや、クラブカップは最高のモチベーションを競技者に与えてくれる大会に育ちました。学生にはインカレという素晴らしい舞台があります。しかし卒業後もこんなに熱くなれる舞台が急速に育ってきたと言うことは何とも素晴らしいことではありませんか! 主催者の熱意には頭が下がります。

勝った上で言わせてもらえば、クラブカップにはぜひ、「クラブ」のメンバーとして参加して欲しいと思います。卒業後に活動の拠点となるのはやはり地域クラブであると思うのです。土台がぐらついていたら日本のオリエンテーリングは立ちゆかなくななります。オープン参加のチームではなく、正規扱いになる「クラブ」のチームの一員として舞台に上がって下さい。クラブの定義は難しく、いろいろな意見があるでしょうが、やはり地域クラブなり、大学クラブなり、が中心となるのが自然でしょう。勝つために臨時に編成したチームは私は邪道だと思います。レギュレーションにメンバー構成だけ合わせればよいと言うものではないと思います。ひょっとしたら、「(本来の)所属クラブは弱くてつまらない」と考えている人がいるかも知れません。そう思うなら、あなたが仲間を説き、クラブを立て直してはいかがでしょうか? 表彰台の上で優勝カップに満たしたシャンパンを味わえば、どんな苦労もとんでいいてしまうと思います。

「正規チーム宣言」は参加者の自主性に委ねられています。来年はより多くの「クラブ」と競い合いたいと思います。今年、多摩OLは挑戦者の立場から追われる立場になりました。しっかり準備し、来年も美酒に酔えるようがんばっていきたいと思います。

永遠のライバル?京葉をはじめ、兵庫、白樺、横浜、サン・スーシ、ROC、三河、ルーパーほかのクラブチームの皆さん、来年も正々堂々火花を散らしながら熱い戦いを演じようではありませんか。

このイベントがますます盛んになり、日本オリエンテーリング界躍進の原動力になることを心より祈念いたします。

最後にPRを少しさせて下さい。多摩OLでは新入会員を随時募集しています。「クラブカップで優勝するため」に入会したメンバーもいます。地図作りがしたくて入会した人もいます。駅伝やマラニックなども楽しみますし、いろいろなことにチャレンジできるクラブだと思います。あなたも仲間になりませんか?(特に、学生および卒業後間もない方には各種特典が用意されています)

2000年1月23日には第17回ジュニアチャンピオン大会を開催いたします。100名ちょっとの参加者だったJC大会も、ジュニア選手、初心者の応援という趣旨をご理解いただき、年々規模が大きくなり会員一同嬉しい悲鳴を上げております。初心者が親しみやすいよう、できるだけ敷居を低くしてお待ちしています。ぜひオリエンティアはもちろん、「オリエンティアにしてしまいたい人」をお説きの上、お越し下さい。東京都青梅市、ニューマップを用意して皆様のお越しをお待ち申しあげます。(〆切12/20、遅れ1/10)

2000年1月26日にはクラブ創立30周年記念大会を公認大会(予定)として東京都内で開催いたします。こちらもあわせて宜しくお願ひいたします。

公式ホームページ <http://www.orienteering.com/tama>

メールアドレス tama@orienteering.com  
(編者注: この原稿は昨年10月に執筆していただいたものです)  
(文中クラブ名は敬称略とさせていただきました)

## 待っていてくれた優勝カップ

サン・スーシ 小山 太郎

一年ぶりに戻って来た優勝カップは、やはりズシリと重かった。

昨年は、連覇のインタビューまで受けながら、ペナ・チェックの結果1走のラス・コンのパンチ忘れ・・・という信じられないミスが判明して悔し涙をのんだが、帰りの車中ではもうすでに今年への闘志がわいていた。

さて、クラブカップの上位キープをねらうべきか、それともクラブカップから強力な制限選手を移してベテラン・クラスでの優勝を確実にするか...。結果は、やはり今までのメンバーは変えず、新しく仲間になったTさんが加わることに決定。優勝杯の奪還は、従来のメンバーが中心で...という気持ちだった。

そこで走順。(結果的にこの作戦がうまくいったことになる)まず1走は昨年のペナを起こし名誉挽回を期すKu、走りも好調、ナビゲーションも安定。2走は60才台に入ってまさに花開く感じの走り絶好調のTa、3走がこのところ走力が落ちているがナビは確実なKo、そしてアンカーは例年どおり走りのTo。

つまり、1走で上位を確保し、2走でさらに上位へアップ、3走では後続チームにかなり追いつかれるだろうがなんとか頑張ってポジションをキープして4走へ、アンカーはかりに3走で後続チームに抜かれることがあつても、走りに走って何人抜きかで1位でゴール... という胸算用でいどんだ。

さて結果は... 1走から2走へは4分差でタッチ、しかし、トップのワンダラーズとは予想以上の差がある、しかし2走がとばしてノーミスで2位に5分差のトップで帰ってくる。3走のKoはやはり走れないものの、なんとか1位を守って4走へ。この時点で、もう優勝は間違いないとクラブ・メンバーの誰もが自信を持っていた。

さてさて、毎回何かをやらかすのが わがサン・スーシである。なんとアンカーは第1コントロールに着いた時に、コントロール・カードを持って来ていないことに気づいてガクゼンとなる。レース放棄を考えたが、思い直してスタート地点に戻り、バッグの中からCCを引っ張り出して再び第1コントロールに戻ったのです。もうこの時点で、お先真っ暗足元まくら、誰が優勝できると思ったでしょうか。でも、東側のスキー場の斜面を見ていた1人のチーム・メイトの目に、確かにあのサンスーシのグリーンのユニフォームがちらりと見えたのです。信じられない快挙でした。あれだけのビッグ・ロスを挽回してまさかトップで戻ってくるとは! ですからラスボからのウイニング・ランは1人だけの伴走で、ちょっぴりさびしかったけれど...や・り・ま・し・た!

以前にも増してずしりと重い優勝カップでした。4人それぞれの思いがカップからあふれています。それぞれにベストをつくしたという充実感と嬉しさで一杯でした。

クラブメンバーや観客のみなさん、応援ありがとうございました。

また来年、このステージの上でお目にかかるつもりです。

(運営の皆さんにもお礼を申し上げます。素晴らしい大会でした。レタスの副賞すばらしいアイデアで奥様連中が大喜び。しかしベテラン・クラスもシユーズが欲しかったなア...)

## オリエンテーリングパラダイス! 菅平高原

菅平高原の詳細情報(各種スポーツ/イベント/観光/宿泊案内)はこちらのオフィシャルwebサイトにてご案内しております。

<http://www.sugadaira.com/index1.html>

## 祝 2005年世界選手権 日本(愛知県)開催!

クラブカップ7人リレーも併設大会の1プログラムとして開催

### 第9回クラブカップ7人リレー 2001年9月9日(日) 駒ヶ根高原にて開催

前日9/8(土)はますみが丘で併設イベント! 水篭刈(ミスズカル)、長野県協会と共に

地図は縮尺1万分の1にして再調査、リメイク、4段階植生かつI S O M2000仕様

会場は駒ヶ根高原家族旅行村「アルプスの丘」(第3回会場と同じ)

オートキャンプ場を併設していますが、少し離れているため第8回のように貸し切りには致しません。会場となる芝生広場はキャンプ場の申込とは別で、大会申し込みだけでOKで、設営は当日朝からになりますが(ここでの宿泊は不可)、着替用のテントも応援用のタープも設営できます。キャンプ場の申し込みは主催者ではなく、各クラブで直接施設に電話等で申し込んでいただくことになります。駒ヶ根高原は充分な宿泊収容力があり、しかも夏休みのピークから遅れて9月の開催となるためそれほど宿の確保に苦労することは(第8回ほど)無いとは思われますが、早めの準備が良いレース結果につながるのはいうまでもありませんね。会場ではキャンプサイト・ケビンがあり、キャンプサイトは36平方メートルで車1台とテント1張りで一杯(桜の湖は100平方)で、一夜4,600円。ケビンは布団・炊事道具・冷蔵庫・風呂完備で5人用一夜18,000円。予約開始は2000年11月1日午前8:30より先着順で開始(~17:30)

予約電話 0265-83-7227 (予約の際は、9/9のオリエンテーリング参加と告げて申し込みください)

詳しくは、第8回プログラム、及び随時更新されるクラブカップwebページに掲載します。

WG(ワールドゲームズ)秋田でも併設大会の一つとしてRMO-サービスも主管者に加わり、クラブカップスペシャルバージョン開催(予定)! 8月19日(日)WGのリレー競技終了後、午後からの開催か? このリレー競技が国際舞台での初の男女混合国別対抗リレーとなることが予定されている。構成人数を減らして、男女混合リレーのクラブカップスペシャルバージョンを考案中 続報はwebページにて。

[クラブカップ公式インターネットWebサイト]

<http://www.orienteering.com/~clubcup/>